

建築家・坂倉準三と 高島屋の戦後復興

「輝く都市」をめざして

LA VILLE RADIEUSE

2021年 9月15日(水) — 2022年 2月13日(日)

※12月15日(水)より一部資料の展示替えを行います

【開館時間】 11時～19時 【休館日】 月・火曜日・年末年始 [12月27日(月)～2022年1月4日(火)]

高島屋史料館TOKYO 4階展示室 **入館無料**

東京都中央区日本橋2-4-1 日本橋高島屋S.C. 本館4階

【主催】 高島屋史料館TOKYO 【監修】 松隈 洋 (京都市芸繊維大学教授)

※新型コロナウイルスの感染拡大状況等を踏まえ、臨時に休館日・開館時間を変更する場合があります。
最新の開館状況は、公式ウェブサイトをご確認ください。

「南海会館付近鳥瞰写真」(1957年頃) / 画像提供：文化庁国立近現代建築資料館

高島屋史料館
TOKYO

建築家・坂倉準三と 高島屋の戦後復興

「輝く都市」をめざして

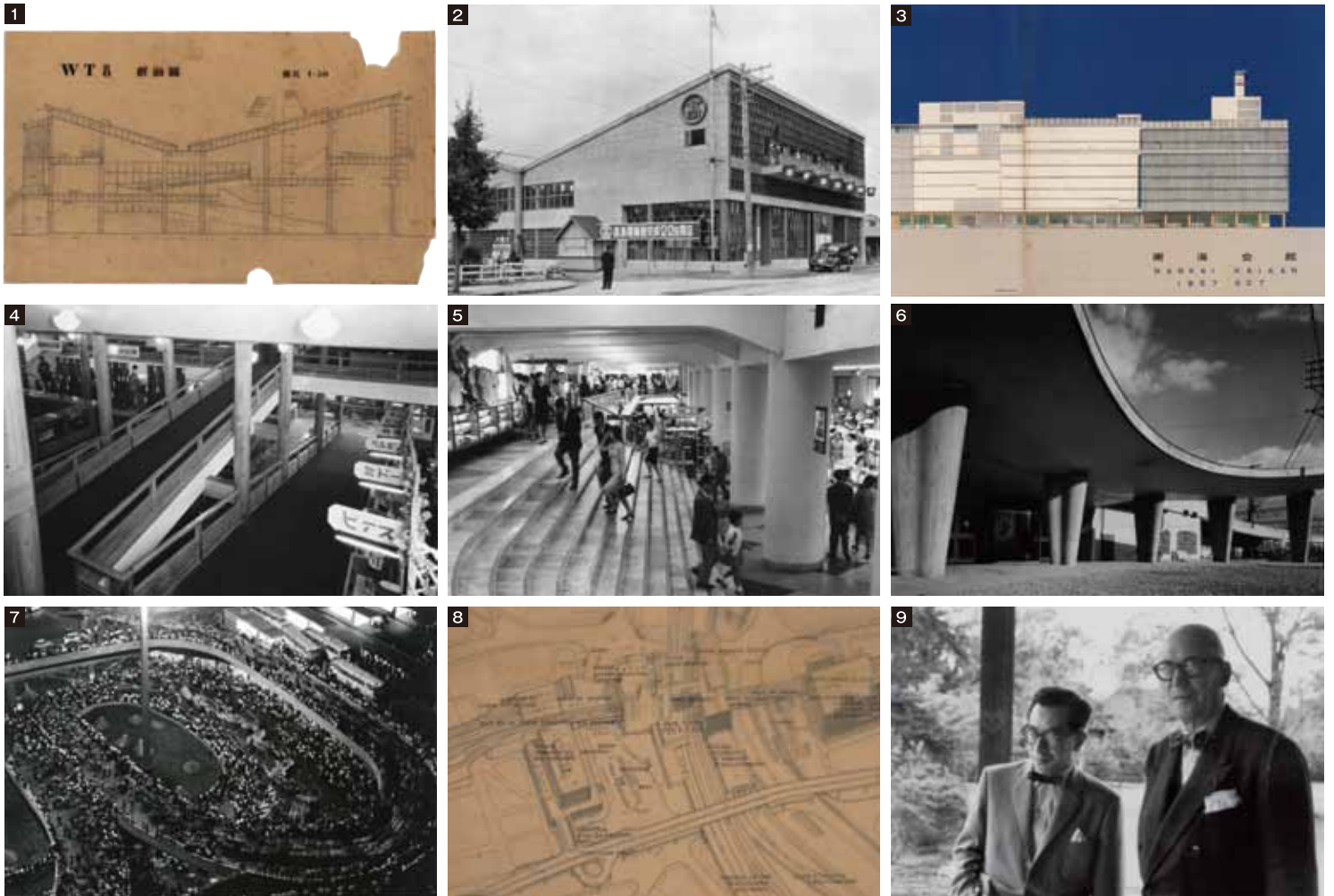
2021年 9月15日 水 — 2022年 2月13日 日

高島屋創業190周年を記念して開催する本展では、建築家・坂倉準三(1901-1969)の仕事と高島屋の戦後復興を紹介します。住宅や公共建築、そして都市デザインまで手がけた坂倉が、高島屋と深い関わりがあったことはあまり知られていません。そればかりか、坂倉の高島屋での仕事が、彼ののちに取り組んだ日本の都市デザインを代表する渋谷「東急会館」(1954)や「新宿西口広場・地下駐車場」(1966)へと接続していくことは、多くの人に新鮮な驚きを与えることでしょう。

坂倉と高島屋は「パリ万国博覧会日本館」(1937)の仕事を通して出会い、関係を深めていきます。戦後間もない「高島屋和歌山支店」(1948)は小規模な木造建築ですが、坂倉の都市的視点からなる商業施設の先駆けといえるもので、各階をスロープでつなぐ、斬新かつ近代的な百貨店空間でした。次

に坂倉は、商業施設と交通空間の複合建築「高島屋大阪難波新館増築(ニューブロードフロア)」(1950)に取り組みます。これは、戦災を受けた南海難波駅高架下の大食堂跡(地下部分)を、高島屋の売り場へと大改築する難しい仕事でしたが、坂倉は駅コンコースと百貨店を往来する人流を「谷川の水」の流れに見立て、複雑な動線を見事に処理しました。この成功がのちの「南海会館」(1957)につながり、百貨店業界、私鉄業界に存在感を示すことになりました。

本展を通して、戦後の高度経済成長と大衆消費社会に向かう中で、坂倉が高島屋と協働し、多くの人々が集まる百貨店という公共空間をどのように快適で美しい空間へと創造してきたか、そして、都市の日常風景をいかに豊かに形づくってきたか、その一端をご覧いただくと幸いです。



1.高島屋和歌山支店断面図(1/50)、文化庁国立近現代建築資料館所蔵 2.高島屋和歌山支店(1948年) 3.南海会館パンフレット(1957年)、文化庁国立近現代建築資料館所蔵
4.高島屋和歌山支店店内のスロープ(1948年) 5.高島屋大阪難波新館改増築(1950年) 6.高島屋大阪難波新館改増築 球場側入口ポーチ(1950年)、文化庁国立近現代建築資料館所蔵
7.新宿西口広場(1969年)、撮影/山田脩二 8.東急会館付近の将来図(1954年頃)、文化庁国立近現代建築資料館所蔵 9.坂倉準三とル・コルビュジエ(1955年)、文化庁国立近現代建築資料館所蔵

オンライン講演会開催のご案内

2021年12月頃に、本展を監修した松隈洋氏(京都工芸繊維大学教授)による講演会の開催を予定しています。詳細が決定次第、当館HPにてご案内します。

詳しくはこちらから ▶



<https://www.takashimaya.co.jp/shiryokan/tokyo>

高島屋史料館TOKYO

東京都中央区日本橋2-4-1
日本橋高島屋S.C. 本館4・5階
※5階旧貴賓室は、対面での
セミナー開催時のみ開館します。



<https://www.takashimaya.co.jp/shiryokan/tokyo>

[アクセス]

- JR「東京駅」八重洲北口から徒歩5分
 - 東京メトロ 銀座線・東西線「日本橋駅」直結
 - 都営地下鉄 浅草線「日本橋駅」から徒歩4分
- ※駐車場は大変混雑しております。お車の入庫には非常にお時間が掛かるため、ご来館の際は公共交通機関のご利用をお願いいたします。

